さくら前線

〒101-8437　東京都千代田区一ツ橋 2-2-1　03-3237-2436

Vol. 1
2004. 7. 10
発行 ： 共立女子大学
文芸 OG ネットワーク
共立女子大学・文芸学部
造形芸術研究室内
TEL&FAX 03-3237-2575
代表 ： 百瀬 好子

ごあいさつ
会代表　百瀬 好子

文芸ＯＧネットワークを立ち上げて一年になろうとしています。会報「さくら前線」創刊号をお送りすることが出来ました。南から北まで縦断する桜前線のように、各地で活躍する皆さんの活きた情報交換の場になればと願っております。

どうぞ、ご意見、ご要望、ご助言をお寄せ下さい。よろしくお願い致します。ご一緒にやっていきましょう。

掲　示　板

◎劇芸術資料整理スタート
8月3日（火）13:30
3号館（旧文芸校舎）
ロビー集合
ﾏｽｸ・軍手・ﾀｵﾙ・ｴﾌﾟﾛﾝ
等ご持参下さい.

◎共立祭
10月16日・17日

◎文芸メディア第４回
研究集会
「メディアと諸権力」
10月30日

総　会　風　景

文芸ＯＧネットワーク 第一回総会開かる！！

去る5月29日（土）14階建ての真新しい大学校舎314号室で第一回総会（会員51名出席）が開催された。百瀬好子会代表の挨拶をかわ切りに、これまでの会発足以来の経過や活動内容（共立祭参加を含めて）の報告・平成15年度会計報告・監査報告の後、16年度の活動内容等提案がなされ、全会での承認がなされた。

本年度も共立祭10／16（土）17（日）に参加することにし、企画や運営委員を広く会員の中から募ることとした。当面の課題としては、会報の発行（年２回）・ホームページの開設・新規会員募集などであるが、現会員の協力を図る事になった。尚、本大学が所蔵している劇芸術関係の資料の整理に当会が協力していくことになり、そのボランティアを全会員から募る。この事業は２～３年かかるが将来は広く学外にも公開することも計画されている。また、会員から要望の強いパソコン講座は、メールが出来る程度の初心者向けのものを計画中である。

総会後、希望者対象に新校舎の見学が行われた。また更に15時～16時30分文芸メディアコース主催の月例研究集会の講演会に参加した。

「散歩の途中で美術館へ」
—郊外型？美術館の役割と学芸員の仕事について—

文芸学部の卒業生でもあり町田市立国際版画美術館学芸員の佐川美智子氏の講演を、現役の学生の方々と一緒に聴き、充実した時間を過ごした。

会 計 報 告

平成15年度収支報告

2004.3.31 現在

収入		支出		残高	備考
会費 240 名	480,000	行事費	140,335		共立祭・文芸 50 周年
寄付 7 名	288,000	会報・広報費	20,688		用紙他
前受金	44,000	事務費	106,064		用紙、コピー代他
		会議費	39,805		お茶他
		什器費	65,554		電話、計算機他
		通信費	40,700		郵送料他
		渉外費	2,310		謝礼他
合計	812,000		415,456	396,544	
次期繰越					396,544

(単位:円)

上記の通り相違ございません。
平成16年5月22日
監査 江川 優香里
脇田 静子

平成16年度会計予算

2004.5.29 現在

収入		支出		
前年度繰越金	396,544	行事費	共立祭	120,000
会費 240 名	480,000	会報・広報費	会報年2回発行	150,000
		事務費	用紙、コピー代他	100,000
		会議費	お茶代他	30,000
		什器費		10,000
		通信費	郵送料	100,000
		渉外費		20,000
		予備費	パソコン教室、資料整理、ホームページ等の活動補助、交通費	346,544
合計	876,544			876,544

(単位:円)

役員名簿

○ :チーフ

代表		百瀬 好子	企画	○	加藤 和代	庶務	○ 小林 菫江
副代表		村上 智子			倉田 静佳		郷右近 千代
		川瀬 治子			今野 美保子		久保 暢子
総務	○	江川 優香里			松島 良子		清水 秀子
		下郷 叡子			矢田 智子		斉藤 京子
		佐伯 智恵子			湊 一子		立川 幸代
		脇田 静子			杉田 由美		鬼塚 律子
会計	○	小林 豊子			白江 千治	会報	○ 市川 和子
		岩間 正子	名簿	○	下村 陽子		酒井 康子
		君村 恒子			斉藤 和子		碓井 弘子
		松尾 慶子			松下 なるみ		横井 景子
							多田 久恵
							西村 厚子
							阿部 由香子

劇芸術の資料整理

劇芸術コースには、故杉山誠先生からはじまって、歴代の先生方が所蔵しておられた芝居のパンフレットが沢山保管されている。なにしろ連日のように劇場に足を運んでおられた先生方なので、大劇場、小劇場をとわず、歌舞伎、新劇、ミュージカル、外来公演等々、実に多彩な内容である。古いものでは明治時代の芝居もあり、名優とうたわれた歌舞伎俳優のプロマイドもおさめられているという。これらは現在劇作家として大活躍している川崎照代さん（昭和 44 年卒）が、助手時代丹念に整理してくださっていたものである。

ネットワークでは、メンバーが楽しめ、かつ母校の教育にも貢献できる一挙両得の活動はないものかと思案していたのだが、この資料整理のお手伝いをさせていただくことになった。将来はデータベースにのせて外部の閲覧にも応じられるようにしたいと考えている。演劇研究者のみならず演劇愛好者にも貴重な資料になるにちがいない。詳しくは次号でお知らせするが、懐かしい芝居、ご贔屓の俳優たちに逢いたいと思われる方がいらしたら、ぜひ参加していただきたい。

連絡先・文責／多田久恵
(昭和 45 年大学院演劇学専攻卒)
0424-21-9767 (TEL&FAX)

共立祭に参加

ＯＧネットは2003年10月17日（土）・18日（日）共立祭にパネル展示とフリートークで参加した。

☆パネル展示

「先輩たちに続こう」

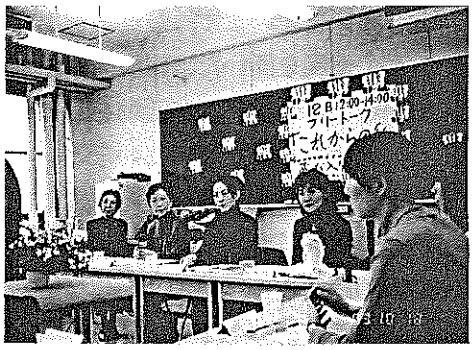
柴田 道子氏（作家）
上地 ちづ子氏（童話作家）
秋元 藍氏（作家）
川崎 照代氏（劇作家）
橋本 和子氏（放送作家）
渡辺 祥子氏（映画評論家）
宮本 潤子氏（アナウンサー）

以上の方々の活躍の様子をパネルで紹介し、著書などを展示した。

☆フリートーク

「これからの私」

18日（日）12時30分～14時



司会

宮本 潤子氏

パネリスト

百瀬 好子氏（生活相談員）
野崎 真弓氏（編集者）
松本 千穂氏（人形作家）
杉田 由美氏（ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾅｰ）

上記４名と学生２名、また会場の40名のオーディエンスの参加を得て、活発な意見のやりとりがなされた。

「文芸メディア研究集会」のご案内

文芸学部の文芸メディアコースは、文学・芸術との関係について体系的に学ぶコースとして設置された。メディアを巡る重要な概念や事象などを集中的に取り上げたり、実際にメディアに関する仕事に携わっている方々から専門的な情報を提供していただく機会として研究集会が持たれている。

その研究集会にＯＧネットワーク会員も自由に参加出来る事になった。（申し込みは不要。無料。）

原則として、4，5，6，10，11月の最終土曜日の午後３時～４時半、神田・一ツ橋校舎にて開催。

連絡先／文芸メディア研究室
（1403号室）
03-3237-2681, 2689

次回の研究集会
（平成16年度第４回研究集会）

日時：平成16年10月30日（土）
午後３時～４時半
場所：神田・一ツ橋キャンパス本館
B101号室
講師：元共立女子短期大学教授
二宮　素子氏
講演テーマ：「メディアと諸権力
―大革命までのフランスを中心に―」

国語から日本語へ

小池恵己子

日本語を教えるようになって20年が過ぎた。日本語教育に携わる前の３年間は、わが母校、共立高校で国語を教えていたので、私はここで、教えることの基本を学ばせていただいたと思う。12年前に結婚してからは週に二、三日のペースで教えているが、今まで仕事を続けてこられたことをありがたく思う。

日本語を教えることのおもしろさは、一言で言うなら、日本語を母語とする私とは違う言語や文化を背景とする人たちに、直に出会えるということであろう。日本語を、学ぶ立場から外国語としてとらえ、さらにそれを日本語と違う発想の人たちに教えることで、自分の文化と相手の文化との違いを知ることができる。また、今まで気づかなかった自分の母語の特徴も分かる。初級レベルの授受表現で、アゲ・モラウは理解されやすいのだが、他者の行為が自分との関わりにおいて恩恵と感じるときに用いる(～シテ)クレルは、学習者の母語にもよるが、分かりにくいらしい。その発想が理解できず、いくら説明しても、使おうとしなかった学習者もいた。

母語である日本語を教える場合、ともすると日本人の発想を外国人におしつけたり、文法だけを教え込んだりという高圧的な態度になりやすい。教師と学習者との関係や学習スタイルは、その学習者がどんな教育を受けてきたかによっても違う。だから私は、異文化の立場から日本語をとらえる視点を持ち続けたいと思う。異文化を理解することは容易ではない。日本語の教室を交流の原点と考え、理解するというより、お互いに違いを認めることを心がけ、日本語を学ぼうとする人々の支援をこれからも続けていけたら、と思う。

想

おばあちゃんの井戸端会議(1)
"やっぱりこの時期鰹です"

わたしの仕事場は老人福祉施設である。

いろいろな仕事の中で、わたしがいつも気を遣っているのは、痴呆症対象のグループホームの住人にである。ここは千葉県。入所者の出身地は、北から南までさまざまである。近隣とは限らない。それぞれ事情があって、これまで一緒に暮らしていた家族から離されてここに連れてこられたのである。だから生活環境に慣れるまでが大変で、帰宅願望が強い。ここがどこなのか、どうしてここにいるのか、理解できないから不安にもなる。そんなとき、話し相手になって、少しでも落ち着けるように手助けをするのである。

平均年齢85歳、平均介護度3、痴呆の軽重にはばらつきがあり、共に生活していくわけであるから、いつも穏やかな雰囲気というわけにはいかない。老いたりといえどもここは「女の園」である。

或る日の昼食風景である。献立は煮魚、お浸し、マカロニサラダ、漬物、豚汁である。「これ、舶来の魚だよ。ぐじゃぐじゃしている。活きのいい青魚が食べたいねえ」と言ったのは五島列島出身のツルさん。「ハタハタがいちばんうめえ」と珍しく応戦したのは秋田のヨシエさん。「あたくし、血の滴るようなステーキが食べたいわ」若い頃米大使館に勤めていたのが自慢のモトコさんがさらにのった。

途端に「おお、気味悪りい！この時期、鰹だよ」と、勝気で江戸っ子を自認するタケさんの言に皆うなずいたのであった。

こんな筋の通ったまともな会話は、実は滅多に無い。驚きであった。　《　遊子　》

訃　報

市川 和子 様【昭和38年卒業・現 文芸学部教授】
2004年7月11日（日）未明　ご逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

◆文芸ＯＧネットワークの会報「さくら前線」第１号はパソコンで手作りすることになった。鉄筆で原紙を切り謄写版で印刷をするいわゆるガリ版刷りを覚えている年代の編集スタッフにとっては手探りのパソコン操作は四苦八苦の作業であった。不手際な部分などは、スタッフの不慣れに免じてお許しいただきたい。

◆ネットワークが発足して初めての会報とあって、記事は総会の様子、これまでの活動のあらましなど、会員の皆さまへのお知らせを中心とする構成となった。次号からは幅広い内容のものにしていきたいと思っている。編集へのご意見、アイディアなどあればお寄せいただきたい。(酒)

広場 ～ひろば～

◎会費納入のお願い

文芸ＯＧネットワークの会員の皆様に平成16年度会費の納入をお願いいたします。納入の際には会報に同封した振り込み用紙をご利用ください。

◎川崎照代さんの書き下ろし、俳優座劇場の舞台に

舞台の脚本家として活躍している川崎照代さん（昭和44年卒業）の作品『名は五徳』がマキノノゾミ演出、文学座と青年座の合同公演の形で、2004年5月6日～16日俳優座劇場で上演されました。作品は、家康の嫡男・信康のもとに嫁いだ信長の娘・五徳が戦国の時代に生きた波瀾に満ちた半生を独自の視点で描いた、作者渾身の書き下ろし。

◎卒業生の皆さんの活躍の情報を！

文芸学部設立以来多くの卒業生を世に輩出しました。女性が社会に出て活躍する姿はもう珍しいことではありませんが、身近な生活の中で、いろいろな分野で活動している方を紹介したいと思います。最近本を出版した、個展を開いた、講演活動をしている、ボランティア活動をしている、同好の仲間を集めたいなど、なんでも結構です。情報がありましたら、お寄せください。

◎百瀬好子さん（昭和35年卒業）が本を出版されます。

『「金の卵」の四十年』
1960年代働きながら学ぶ若者がいた。その若者と関わりあった定時制教師がいた。（つくばね舎）

<Special Thanks>
カット：今野美保子さん